調布らしさを感じられた３つの視点　～市内９駅の駅まわりの景観～　【大学調査編】

１月１３日の景観まちづくり市民検討会では，昨年度に検討会で実施した，調布市内９駅の魅力発見に関する調査を踏まえ，特に調布らしさを感じられた３つのテーマ「見下ろす」「空と夕陽」「人がつくる」を課題に，調布市景観アドバイザーの石川氏，慶應義塾大学大学院生によるフィールドワークの結果を報告してもらいました。

※フィールドワークの結果は２頁～３頁に掲載しています。

石川　初 氏
慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科教授
調布市景観審議会委員
調布市景観アドバイザー

「駅の景観」　最終課題

「活かしていくべき風景」・「新たに必要な（創出したい）風景」を発見しよう！

調布駅周辺は京王線の地下化に伴い南北の分断が解消するとともに広場空間が拡張され，市の玄関口であり中心となる拠点として新たなまちなみが模索されています。

そのような中で，まちの風景として変わるものがあると同時に変わらず残るものがあると考えています。

みなさんもこれからの調布駅のまちなみを思い浮かべながら，今あるものを変わらず活かしていきたい風景と，今後に向けて新たに創り出したい・必要になる風景を発見してみましょう。

◎活かしていくべき風景とは

現在の調布駅周辺にあるもので，今後も活用していくべき場面，継続して残って欲しい場面など

◎新たに必要な（創出したい）風景とは

現在の調布駅周辺にはないが，今後，このような場面があるとまちの魅力に繋がる，生活が豊かになる，賑やかになる，まちに変化が生まれると感じる場面など

【調布駅周辺の範囲イメージ】

次回市民検討会のお知らせ

第３回検討会では，事前に皆さんが見つけてきていただい内容（課題）を踏まえ，中心拠点のまちなみ景観について，意見交換を行います。

令和４年度第３回市民検討会

日にち：令和５年３月１７日（金）
時　間：午後７時から午後８時４５分
場　所：文化会館たづくり９階　研修室

調布市では，景観まちづくりについて，景観だよりでお知らせしていきます。

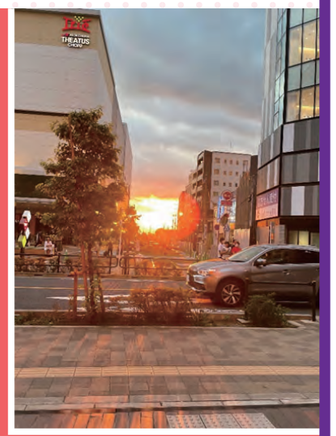
発行：調布市都市整備部　都市計画課　開発景観係
Tel：042-481-7442　Fax：042-481-6800　Email：tikubetu@city.chofu.lg.jp

ちょうふ景観だより

令和5年2月21日発行
第58号

見下ろす

空と夕陽



人がつくる

市内の駅のあらたな魅力を発見しよう

令和３年度に市民委員の皆さんに見つけてきていただいた調布市にある鉄道駅の「駅まわり」で魅力を感じる場面のなかから，調布らしさを感じる３つのテーマに絞り，慶応義塾大学大学院石川研究室に調査をしていただきました。

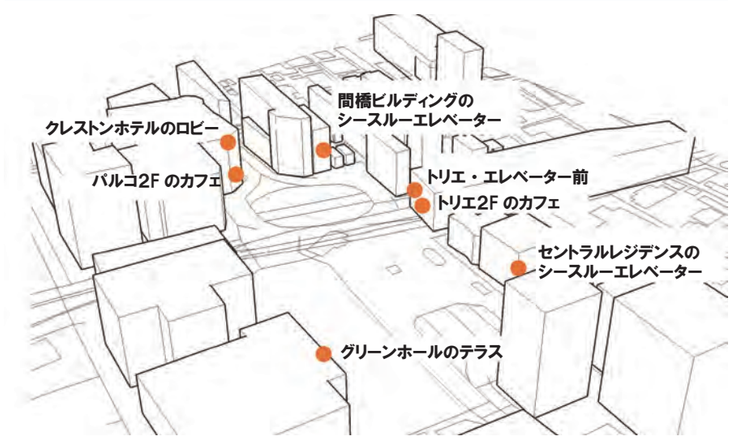
本号では，調査内容の一部をご紹介しています。

調布らしさが感じられた3つの視点 ～市内9駅の駅まわりの景観～

広場を見下ろす景観

調布駅では京王線の地下化により，南北の移動が容易になり広場の持つ役割が広がりました。
本来は広場からの景観を意識することが多いですが，周囲を囲む建物等から見下ろす広場は，調布駅のあらたな風景となることが発見できました。

調査で発見した調布駅の広場空間を見下ろすことができる場所



シースルーエレベーターから見る広場

地上では「広場の中」ビル上部からは「広場を俯瞰」して見ることができ，エレベーターでは3階から4階付近（地上10m前後）に，その境界があるように感じた。
調布駅は地上から見上げると密度の高い街だが，見下ろすと空間が多いことが感じられる。

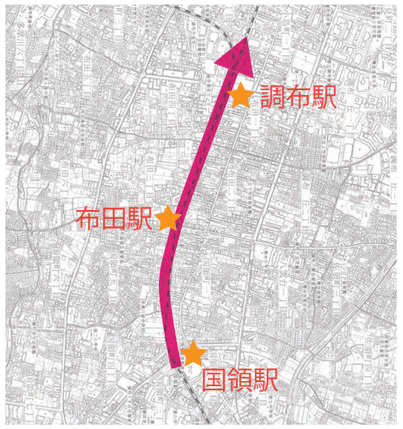
見下ろす風景で発見する「広場のかたち」

バス停やベンチが円形で構成されることで人の動きも円を描き，その中で点字ブロックが広場を仕切り，囲っていることを見ることができる。
一方で，広場の舗装とともに存在の大きいバス停の屋根が目立ち，仮設物の存在も大きいことがわかる。

空と夕陽の景観

京王線の地下化に伴い、線路跡地の開けた空の存在を認識し，さらには素晴らしい夕陽を見ることができました。
それをきっかけに，調布市内の駅にはそれぞれの立地条件・季節に応じて様々な夕陽を見ることができることを発見しました。

京王線の線路の地下化によりあらわれた「西への眺望」



調布駅前：広い空・ガラスのビル

調布駅・布田駅からの夕陽鑑賞の目安
5月上旬・8月中旬の 18 時半ごろ
見どころ：ビルのガラスに映りこむ夕焼け

国領 – 調布間：夕陽に向かって歩く

国領駅からの夕陽鑑賞の目安
3 月下旬・9 月下旬の 18 時ごろ
見どころ：線路跡地先の日没前の夕焼け

京王多摩川駅：夕陽と富士山の共演

京王多摩川駅からの夕陽鑑賞の目安
12 月下旬（冬至）の 16 時ごろ
見どころ：ホーム先端から多摩丘陵に沈む夕陽

※各駅の夕陽鑑賞の時期や見どころについては，シミュレーション結果による目安になります。

人がつくる景観

コロナ禍であったここ数年は今までと異なり，日常で身近に人が行き交う場面が減ってしまっている印象がありました。
その中で「人がいる」，「人を感じる」ことができる場面が，まちの景観を形成する一部であることをを再認識することができました。

古い街区の細い道や踏切のスケール／柴崎駅

踏切で待っている人がつくる日常的で親密な風景

細い道を行き交う人がつくる安心できる身近な風景

駅周辺の商業地区の歩行空間の賑わい／仙川駅

改札から見える駅前の「人の風景」

駅前と商店街のスケールと人の密度の違いがつくる風景

大きすぎないオープンスペースが作るまとまりのある風景

地下化により生まれた広場の周辺の小さな空間が作る人の風景

大きな広場内のバス停やベンチなど個々の小さな空間で人がいる風景
バス停の時間帯によっては，人が待つ風景が柴崎駅の踏切で人が待つ風景と似た雰囲気を感じられる（調布駅）

ベンチ周辺が公園になる風景（国領駅）

駅前広場がご近所の公園となる風景（布田駅）